

ヤンゴン素描 No. 29

山形洋一

ポカン (Hpawkan) 廃車の山だけの不愛想な駅



YCDC 地図帳では Phaw Kan とつづられている。「軽の池」といったような意味の地名らしい。環状線の 38 駅の中でも、利用客の少ない駅だが、すぐ北 0.9 キロの場所に、次のアウンサン駅がある。

この駅の特徴は、西側に長く延びるコンクリートの塀と、そのむこうに積み上げられた廃車の山だ。製鉄工場の原料となっているようだが、地図には記されていない。謎の工場の西を南北に走る道路には、「工業道路」の長ついている。

1929 年の地図では、このあたりはミンガラードンと呼ばれ、駅はなかった。東に軍施設や飛行場ができると、由緒正しい「ミンガラードン」の名

はそちらに乗り取られてしまう。ここに残ったのは、ローワー・ミンガラードン道路、ティリ・ミンガラ道路、アウン・ミンガラ通りと言った名前ばかりだ。

ここと空港を結ぶティリ・ミンガラ道路は、駅から西でトゥッカ (楽) 道路と名を変えてライン川に至る。これも地図にはないが、工業関連の河岸と繋がっているのだろう。

愛想のない報告で恐縮だが、以上は二年前に私が見たままの状況である。ひょっとするとその後、JICA が関与する環状鉄道整備計画の影響を受けて、この付近にもさまざまな開発が進んでいるかもしれない。どなたかその後の様子を知らせていただけないだろうか。

(了)